

平成29年度市政懇談会記録調書

対象地区	平磯中学区
日 時	平成29年7月2日(日)午後1時00分～午後3時11分
場 所	平磯小学校体育館
参加人数	34名

内 容 (要旨, 発言, 集約事項等)

事前質問

1. 商店の減少や高齢化など地域の実態を踏まえた公共交通など移動手段の確保について (企画部)
2. 小中一貫校の進捗状況について (教育委員会)
3. 道路の新設について (建設部)
4. 磯崎地区の3～4月の風食防止について (経済環境部)
5. 通院・買物等ワゴンバスの運行について (企画部)
6. 小中統合後の学校施設の跡地利用計画について (教育委員会)
7. 海浜鉄道・スマイルバスのシルバーパスの発行について (企画部)

懇談質問

1. 小中一貫校に伴う道路について (教育委員会)
2. 農道について (建設部)
3. 平磯海浜公園等について (要望・御礼)
4. 磯合住宅の跡地とコミュニティーの新設について (建設・市民生活・総務部)
5. 小中一貫校の部会について (教育委員会)
6. 茨城国体について (市民生活部)
7. 小中一貫校と駅の場所について (教育委員会)

◇事前質問1（商店の減少や高齢化など地域の実態を踏まえた公共交通など移動手段の確保について）

地域店舗の減少による買い物困難，交通不便による移動困難，高齢者自身の金銭面，身体面での生活困難が生じている。高齢者運転の代替えとなる移動手段がなければ免許返納は進まないのではないか。

- ・既存の交通機関の利用で（車からの）代替えができるか。
- ・免許返納者は，返納証明を提示すれば無料で乗車できないか。
- ・コミバスの運行ルート上であれば停留所以外での乗降を可能としては。
- ・スマイルバスの増便は考えられないか。
- ・試験的に多様なデマンド型の移送サービスを行うことができないか。

■企画部長

高齢者の移動手段の確保という観点から，代替となる移動手段がなければ運転免許証の自主返納は進まないのではないかというご質問でございます。その中で既存の公共交通機関，これが代替の移動手段になるのだろうかという点についてであります。当平磯地区の公共交通の現状を見ますと，まずひたちなか海浜鉄道湊線，これが1日に上り30本，下り29本，運行をいたしております。また，茨城交通が運行しております，通常の路線バスで那珂湊駅，それから水戸方面へ向かうバスが1日に上り下りそれぞれ24本ということで，路線バスも1時間に1本ないし2本という間隔で運行がございまして，市でスマイルあおぞらバスが1日に上り3本，下り3本という運行になってございまして，以前に比べますと，路線バスの運行本数は減ったというようなことはあるかと思っておりますが，市の立場で市内全域のバランス的なことを考慮しますと，現状でも比較的，この地域は公共交通の便のよい地域のほうに分類されるのではないのかなと思っております。したがって基本的には，これらの公共交通機関を代替の手段としていただきたいと考えているところでございます。

しかし，このご質問の趣旨にもありますとおり，この平磯地区は医療機関，それからスーパーマーケットなどが少ないといったことから，日常的にほかの地域に出かけていかなければならないといった状況があります。このため，もっと使いやすい公共交通にするべきであるというご指摘は，そのとおりであると考えてございまして，市といたしましては，まずスマイルあおぞらバスの運行をもっと工夫をすることで対応してまいりたいと考えております。地域の皆さんにとって，より使いやすいものとなりますようにコースの見直し，それから停留所の増設につきまして自治会長を初め地域の皆さんのご意見をよく伺いながら行ってまいりたいと考えております。

次に，運転免許返納者へのスマイルパスの1年間の無料の措置について，返納証明を提示すれば無料で乗車できるようにならないかというご質問であります。市で運転免許自主返納する方にスマイルあおぞらバスの1年間の無料パ

スを交付しております。1年間としておりますのは、もともと免許を持っていらっしゃる方との公平を図るという意味もありまして、免許を返納した方に公共交通を利用するきっかけにさせていただきたいということで行っております。この無料乗車パスなのですが、警察署で免許返納の手続きをしていただきますと、返納証明書を紙の証明書と、それから穴のあいた運転免許証を渡されます。これは市役所の生活安全課の窓口のほうにお持ちいただきますと、免許証の裏側に証明になるシールを張りつけまして、これを無料乗車パスとしているものでございます。

そこで、この紙の返納証明書のほうを見せるだけでよいのではないかといったお話なのでありますが、これはもともと運転免許証であったものを携帯にも便利な顔写真つきの無料パスとして活用しているという趣旨でございまして、バスの運転手が確認しやすいものであるという必要もございまして、これは現行の方法でやっていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

次に、スマイルあおぞらバスの停留所以外での乗降を可能にできないかというご質問についてです。バスの運行に当たりましては、運行ルート、それから停留所の位置、これらについて安全運行の観点から、あらかじめ警察などとも協議をいたしまして、国土交通省の許可を得て行っております。山間部などの住宅がまばらな地域では、一部例外的にどこでも乗りおろができるフリー乗車乗降制度というものが認められるケースもございまして、平磯地区については極めて難しいという状況であります。

このため、停留所の数を増やしたり、より使いやすい場所に停留所の位置を変更するということが、対応を図ってまいりたいと考えております。具体的なことは、今後地域の皆さまとも協議をさせていただきたいと存じます。

それから、スマイルあおぞらバスの増便についてのご質問です。現在スマイルあおぞらバス、市内全体では7台の車両が運行しておりますが、那珂湊地区は現在バス1台の運行でありまして、那珂湊駅から平磯、阿字ヶ浦を經由してジョイフル本田へ行き、十三奉行、部田野を經由して湊駅に戻るルートと、またその逆もあるといった運行ルート等でありまして、1便当たりの運行時間が長くなっております。増便の余裕がないといった状況ではあるのですが、商業施設、それから病院などを効率よく回るルートにつきまして、今後も研究をして、地域の皆さんにとって使いやすいものになるように工夫を重ねてまいりたいと思っております。

それから、試験的にデマンド型の移送サービスを行うことができないだろうかという質問についてであります。デマンド型の移送サービス、乗り合いタクシーのように利用者の要請に応じて、ドア・ツー・ドアでお客様を運ぶシステムということで、主に山間部ですとか、公共交通機関が全くない地域で今導

入が進んでいるところであります。効果を発揮するには一定の条件があると言われておりまして、山間部に限らず郊外の団地のように、ある程度の利用者がコンパクトにまとまっている地区から目的地となる市街地に乗り合いで出かけるのですが、出かけた先でも駅や病院、それから商業施設、これらをコンパクトに集中していて、複数のお客さんを効率よく送り迎えができるという状況、これらが整った場合に効果を発揮するとされております。

ひたちなか市でも平成21年から平成23年にかけて、このデマンド交通の導入の可能性について検討したことがあります。これはバス、タクシー事業者、それから福祉関係団体や自治会にもご参加いただきまして、警察の代表者などで組織するひたちなか市の公共交通活性化協議会という組織でもって検討したものです。その結果は、本市においては、鉄道、バス、タクシーの公共交通が一定程度機能しているということと、市内のあらゆるところに住居があり、利用者の集約が困難であること、それから外出先となる病院や店舗も市内全域に広がっておりまして、複数のお客さんを効率よく送り迎えするということが難しい状況であります。

このため、費用や運行効率の面で、デマンド型は本市には不向きであり、路線バスやスマイルあおぞらバスのような定時定路線型による運行のほうが効果的であるという結論でありました。そして今現在、身体障害者手帳をお持ちの方などに対しまして、通院、通所のためのタクシー助成を行っておりますが、個別の要請に応じて行う、いわゆるデマンド型の移動の支援につきましては、当面そうした移動に大きな制約の係る方々を優先して行いたいと考えております。

しかし、その一方、高齢化の進展によりまして、公共交通の利用が困難な方、バス停や駅までの移動が大変だし、買い物をして大きな荷物を持って帰ることができなくなってきた方は増えていると感じております。

◇事前質問2（小中一貫校の進捗状況について）

基本設計の進捗（教室や特別教室等の数等）や全体計画に対する進捗率と幼稚園の新設について伺いたい。

■教育次長

この統合校の建設につきましては、それぞれ今年度から予算がつきまして、事業化されるという段階でございます。それでも本年度の予算のうち、設計等の業務の委託につきましては、6月の初旬に入札により業者が選定されまして、契約をされたところであります。さらに、土地評価、それと補償料の算定につきましては、7月中に発注する予定をしております。また、測量につきましては、今年度中、地元の皆さま方と協議の上、測量に入るというような順番になっております。

さて、今年度の事業は、まず測量ですが、これはご承知のように学校用地の高低差であるとか、正確な面積の測量に入ります。それと、これから買収に入りますが、まずその土地の価格を調査するための不動産鑑定と土地の評価を行います。建設用地内の住宅や立木等の補償料の算定と建物の基本設計を行います。この場合、基本設計は、校舎や体育館等の配置、間取りと外観といったものを決める基本設計を行うのが本年度の事業になります。

また、設計計画の策定に当たりましては、この統合校建設事業を総合的に、調査検討を行い、協議等をするために平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校整備等推進委員会を設置いたしました。この委員会の中に施設整備等検討部会というものをご設け、この部会の中に地元の皆さん、学校の関係者等に来ていただきまして、より多くの皆さま方のご意見をお聞きしながら、地域に誇れる、愛される学校づくりを進めてまいりたい所存であります。

なお、この検討部会は、先月6月19日に開催されたところでありますが、ここには先ほど申し上げました、設計等の委託業者も入っていただきまして、自治会等から寄せられましたアイデア等を、この業者に伝えたところであります。6月19日に第1回目が開かれたところであります。

さらに、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校整備等推進委員会には、施設整備等検討部会のほかに学校運営等検討部会、通学等検討部会、校名等検討部会、それに跡地利用検討部会、合計5つの部会を設置してございます。それぞれに例えば学校運営等検討部会におきましては、学校関係者のもとに新しい学校の運営のための組織であるとか、教育課程、こういったものの検討を進めております。また、通学等検討部会においては、ひたちなか海浜鉄道、ひたちなか警察署等の関係者の方々を交えて統合校における通学方法等についても検討を行っているところでございます。また、そのほか跡地の利用でありますとか、学校の名前等につきましても、取りまとめを行っていく予定でございます。

来年度からですが、平成30年度は用地交渉、土地の交渉を行いまして、この土地を取得する予定です。そして、校舎や体育館などの、屋根や壁の材料、柱の大きさ、構造といったところの詳細な図面をつくりまして、あわせて工事費用の具体的な精算などを行う、いわゆる実施設計を行います。この実施設計によりまして、設計業務は完了することになります。

もう一年先の平成31年からですが、建設工事を進めることになります。平成31年、それと平成32年、2カ年かけまして建設工事を進め、あわせて、学校の名前、それと制服を導入するかどうか、あるいは校歌、こういったものをどうするかということを決めて、平成33年4月に開校する予定ということで進めております。

あわせて、ご質問の中にごございました、幼稚園の新設ということのお尋ねにお答えしたいと思います。この幼稚園の新設につきましては、本年度ひた

ちなかな市立幼稚園再編計画を策定したところです。適正な幼稚園の規模の確保がされるように、現在市内には10の市立の幼稚園がありますが、これを平成32年度末までに勝田地区において2園、那珂湊地区においても2園、計4園に再編をする計画でございます。那珂湊地区におきましては、5園ありますが、そのうち3園を閉園いたしまして、那珂湊第一幼稚園、それと那珂湊第三幼稚園を拠点園としていく計画です。したがって、新たに市立幼稚園を設置する予定はありませんが、この地区におきまして、現在地区の社会福祉法人から、この地区内において新たに幼児教育、あるいは保育施設の建設を予定しているというお話を伺っておりますので、これから福祉部門とも連携を図り、この動向を把握してまいりたいと考えております。

◇事前質問3（道路の新設について）

東西線（海岸道路から日立建機方面）の新規道路の新設について伺いたい。

■建設部長

先ほど教育委員会より小中一貫校の進捗状況についての回答の中で、通学方法については、通学等検討部会で検討しているとの回答がありましたが、この部会では通学の手段、方法とあわせて通学路の検討もしております。

ご質問の東西新設道路につきましては、通学等検討部会で検討された通学方法や通学路などと整合を図り、この地区の交通体形や利便性、広域性、安全性等を総合的に勘案し、今後自治会や関係者の皆さまと意見交換や協議を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◇事前質問4（磯崎地区の3～4月の風食防止について）

今までは風食防止策として、まく麦の量を年々増やし、1月から2月には効果があったが、耕作農家は、2月下旬から3月上旬には、ロータリーで畑に鋤き込んでしまい、鋤き込んだ後に春一番がくるので、鋤き込む時期を1ヶ月程度遅らせる指導を、昨年同様お願いしたい。

■経済環境部長

ひたちなか市の土ほこりの対策につきましては、畑の土の飛散防止事業ということで、毎年JA常陸の農家回覧を利用させていただきまして、市内全農家の方に周知を行っているところです。具体的には、麦の種子を無料で配布しまして、その種をまいていただくということで、畑の土ほこりの発生の抑制を図るということで行っている事業です。

最近では、農家の皆さまの意識も高くなってまいりまして、ご協力いただく方も増えてきております。そういったことで、冬場の土ほこり対策に一定の効果が上がってきていると考えております。

昨年度の状況でございますが、その前の年と比べまして、麦の種子の量です

が、7.7トン増量いたしまして、市内全体で見ますと、84トンの麦の種子を農家に配布して、約840ヘクタールの畑に種まきをしていただいたところです。

磯崎・阿字ヶ浦地区の内容について具体的に申しますと、約15トンの麦の種子を配布させていただきました。一昨年度から麦の種をまいている状況は、現地の確認もさせていただきました。実際に麦まきをされていない農家の方は約200件になりますが、直接農地の所有者のところにも出向きまして、個別に協力依頼をお願いしているところです。そういった中で、少しずつではありますが、実施面積が広がってきている状況です。今年度も昨年同様に取り組みを行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

しかし、実際にまいていく面積は広がっているわけで、そのすき込む時期というのが一番重要なポイントになるかと思えます。各農家の方は、年間の作業スケジュールの中で、田植えであるとか、芋苗の植えつけというような時期を見計らいながらやられておりますので、そういった兼ね合いの中で、すき込む時期をもう少し遅らせていただくというようなことは、なかなか難しいことですが、その土ほこり対策につながるので、農家の方のご協力を要請しまして、少しでもすき込む時期を遅らすことでの土ほこり対策を進めてまいりたいと思っております。具体的なところがございましたら、ご指摘をいただいて、こちらで対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◇事前質問5（通院・買物等ワゴンバスの運行について）

平磯町内の高齢者などが通院・買い物に利用できるワゴンバスを運行し、自宅周辺で乗降できるようにならないか。

■企画部長

スマイルあおぞらバスのワゴンタイプの車両の導入につきましては、現在佐和コースと田彦・金上コースで、もう既に導入しております10人乗り、1人は運転手なので、お客さんは9人ですが、ワゴンタイプの車両を那珂湊地区に導入できるかどうか、その可能性を検討してまいりたいと考えております。

しかし、先ほど申し上げましたとおり、どこでも乗り降り自由ということに関しては、難しい状況でありまして、できるだけ工夫をしましても、公共交通で対応可能なことには、やはり限界があると思っております。このため、高齢者の支援策としましては、別途介護や福祉、そういった観点から支援のあり方を検討してまいりたいと考えております。現在、ほかの自治体で行われている支援策などの調査研究を行っているところであります。

◇事前質問6（小中統合後の学校施設の跡地利用計画について）

統合後の学校施設の跡地の利用計画について伺いたい。

■教育長

統合校の学校施設の跡地用計画については、先ほどのご質問でもお答えいたしましたように、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校整備等推進委員会の中に跡地利用の検討部会を設置しております。この部会には、地元の皆さんや学校関係者などに参加をしていただくことで進めてまいりたいと考えております。より多くの方々のご意見やご提案をいただきながら、この地域の今後の発展に貢献ができる学校跡地の有効な利用を考えてまいりたいと思っております。

◇事前質問7（海浜鉄道・スマイルバスのシルバーパスの発行について）

70歳以上の方に「ひたちなか市シルバーパス（海浜鉄道・スマイルバス）」を発行してはどうか。

■企画部長

高齢者福祉の向上という観点からは、体の機能の低下などで本当に移動に困っている方を対象とした支援策を優先して考えることが必要ではないかと考えておりますし、年齢で区切るということは、一つの考え方であるとは思いますが、まだまだ元気な70歳の方もいらっしゃいますので、そうしたシルバーパスを一律に発行するという考えは今のところありません。

しかしながら、必要な支援を必要な方に届けるということは当然必要なことであります。移動の困難を抱える高齢者の支援策としましては、現在NPOなどが実施しております、福祉有償運送というのですが、これらでは要介護認定を受けていらっしゃる方、あるいは障害者手帳をお持ちの方を対象に会員登録制なのですが、通常のタクシーの半額程度の料金で送迎が行われております。例えばこれを拡大して70歳以上の高齢者が利用できるようにするという取り組みがあれば、その部分を市が支援することも高齢者の移動の支援につながりますし、あるいはもう外出が困難だといった場合には、最近普及をしております、コンビニの宅配サービスのようなものを何らかの形で市が支援するといったことも考えられるのではないかと考えております。

市としましては、誰もが利用しやすい公共交通にしていくということと同時に、移動が困難な高齢者が本当に増えている、この現状を十分認識いたしまして、福祉や介護の観点からの支援のあり方についても検討してまいりたいと思っております。

◇懇談質問 1（小中一貫校に伴う道路について）

小中一貫校ということで、電車を利用して通学となると、電車の回数が問題になる。通学時間帯の1時間の間に電車が何本通るか、小学校の低学年の子は親が迎えに来るかと思うが、今の道路では歩道がなく、道もせまいので危険である。日立建機から、この間の道路を要望する。

また、要望として、海岸の県道への避難道路として、ちょうど農道がある。そこを直接避難道路にすると学校の体育館に避難できるので、これを安全に通れるようにしてほしい。

また、幼稚園の問題は、磯崎にはあるが、阿字ヶ浦と平磯には幼稚園がない。磯崎も大分古く、老朽化しているため、阿字ヶ浦、磯崎、平磯の幼稚園を一貫校の中に組み入れていただきたい。

それと、いつも磯崎の畑の粉じんと騒いでいるが、2月、3月の粉じんは、車も走れない状態で、安全上にも問題があり、普通の民家はサッシ1枚、2枚、その中まで土が入り込んで、公害のような状態であり、種を幾ら配っても、まくか、まかないかである。今、畑を持っている方は、又貸しになっている状態で、その先まで行き届いているかどうかの問題である。難しい問題だが、学校ができれば、少しは緩和されると思うが、その辺を要望したい。

■司 会

先ほど回答したものが回答になってしまうと思うのですが、今おっしゃられたことについては、回答済ということでよろしいでしょうか。

◇懇談質問 1（小中一貫校に伴う道路について）

聞き取れなかったので、幼稚園の問題がわかりにくいところがあった。

■教育次長

幼稚園の新設について伺いたいというご質問について、改めましてご答弁をさせていただきます。

本年度、平成29年度にひたちなか市教育委員会におきましては、ひたちなか市立幼稚園再編計画を策定いたしました。この計画の中身ですが、適正な幼稚園の規模、これを確保するためにといたしますのは、現在子供の数が減っているという要因が一つ。それと、女性の社会進出が随分進んでいるということから、幼稚園ではなくて、保育所、保育園でのニーズ、需要が非常に多くなっております。そのために私立と公立と幼稚園は2種類ありますが、その双方ともに園児数の減少ということが起きております。特に公立の幼稚園におきましては、平成11年度がピークでしたが、このとき約800人いた園児が、直近では320人、半数以下の数字となっております。そのため、各園では、いわゆる適正な数、人数での幼稚園教育といったものの困難性が非常に出てまいりました。先ほど申しましたように、適正な規模、ある一定の園児の数を確保した上で幼児教育を行うというのが、まず一つの方針であります。

さらに近年、特別な支援を必要とする子供の数が特に増えておりまして、こういうお子様たちへの対応につきましては、私立の幼稚園ではなかなか難しいというお話を伺っております。これらにつきましては、当然公立の機関が行うべきものと捉えておりまして、大きくは今申しあげました2点から公立幼稚園の再編を進めようという計画でございます。

実際の中身といたしましては、先ほどもお話いたしました、勝田地区に2園、そして那珂湊地区にも2園、那珂湊地区に残りますのが、那珂湊第一幼稚園、それと那珂湊第三幼稚園、この2つを残して再編を進めようという計画です。この計画を策定いたしましたので、新たに幼稚園を設置するという予定はございません。

しかし、この地区、特に平磯、磯崎の地区ですが、この地域の社会福祉法人が、この地区内に幼児教育、あるいは保育のための施設の、新たな場所での設置を予定しているというお話をお聞きしております。具体的な場所は、ここだということは正確には把握できておりませんが、何か統合校の近くを目当てにしているとの話もお伺いしております。特にその内容につきましては、保育部門での話もございまして、福祉の部門と提携を図りながら、この進捗の動向等を注視してまいりたいと考えております。

◇懇談質問1（小中一貫校について）

保育園と幼稚園は、話に聞くと学校の金額が、幼稚園は半額以下ということ、保育園は高いと聞いたので、ぜひ幼稚園をつくってほしいという要望である。

◇懇談質問2（農道について）

磯崎の柴田電工から西に向かって農道があるが、その農道の両サイドが大分傷んでいて、舗装するのには持ち主に確認して返事をもらっているが、新しい道路を作るために1年半以上中断している。これはやらないのか。

■建設部長

その辺も統合校の通学路のエリアに考えられていたと思います。通学路が明確に決まりましたら、その道路の舗装もどうするのかということは検討して、できることであれば進めたいと思います。もう少し統合校の通学路について、具体的なことができましたら、また後ほどお話に行きたいと思いますので、よろしく申し上げます。

◇懇談質問3（平磯海浜公園等について）

平磯海浜公園街灯に、現在3灯ついているが、今年度中にあと2灯追加することと、トイレも老朽化しているので、予算がつき次第、直して欲しい。

また、現在平磯2号線の雨水工事を行っているが、排出口が3カ所あり、南側の排出口がしけ等で、海草や土砂が排出口に詰まってしまい、市が海草や土砂を取り除いているが、従来積んでいた波消しブロックを100個ぐらい上積みして、その後は海草や土砂が排出口に詰まらなくなったので感謝する。

◇懇談質問4（磯合住宅の跡地とコミュニティの新設について）

統合校とは関係ないが、海岸道路が整備されるので、磯崎駅に通ずる道路をつくってほしいと以前から要望しているが、何の進展もない。どうなっているのか、またこれからについてもあわせて伺いたい。

また、平磯コミュニティセンターは、駐車場がなくて困っているので、統合校の近くにコミュニティセンターをつくってほしいと要望があったと思うが、統廃合される学校の跡地に考えるという話があったが、公有地である電波研究所の跡地も広い土地があるので、活用してはどうか。

■建設部長

磯崎住宅に上がる道路は、大変申しわけないですが、その辺の要望が、いつごろ、どのような形でというのが、今現在私もわからないところがありまして、ご回答がまだということで、持ち帰りまして、精査してから自治会長にご回答したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

■市民生活部長

平磯コミュニティセンターのお話の部分についてお答えいたします。

昨年も会長からお話をいただきまして、何とか新しいところにできないかというお話がありました。昨年私の回答は、まだ今の時点では、その新しいものを学校に伴ってつくることはないとお話をその当時差し上げました。しかし、今後学校が一つになるということは、今現在あります平磯コミュニティの組織、それと阿字ヶ浦のコミュニティの組織、2つのコミュニティの組織が今存在する形になっております。それぞれのコミュニティ組織そのものの統合というものも一つ考えなくてはならないと、この部分については、まだ話し合いというのは実際進んでおりませんので、これはそれぞれ双方のコミュニティ組織のかかわり、当然コミュニティ組織のメンバーは地域の皆さんですから、そういった方とも話し合いしながら、そのコミュニティセンターというのは、真にあの場所に必要なのかどうかというものも含めて、今後あわせて検討したいと思っております。

■総務部長

その候補地として、平磯の電波研究所の跡地がどうかのお話ですが、昨年

の市政懇談会でも平磯電波研究所の跡地のお話がありまして、地元として、あの施設を、コミュニティ施設ということではなかったのですが、何かほかに活用する方法があるのではないかと、そういったご意向もあるということで、跡地利用について地元の意向をまとめていただきたいというお話でありまして、今年の1月に、これは平磯コミュニティセンターの市民会議で電波研究所の跡地利用について協議が始まりまして、1月に2回、そして今年の5月にもコミセンの市民会議で協議がなされたが、まだ意見集約には至っていないとお伺いしております。

◇懇談質問5（小中一貫校の部会について）

小中一貫校の関係で、校名や設備は協議したが、運営や通学の部会は設備部会と同じように自治会や学校側から意見をもらうということですか。

■教育次長

部会の開催を詳しく説明しますと、教育委員会の中に、担当する課ごとにその部会を担当するという事になって運営がされております。実は学校の運営等は、先生方が主体になってやっております。ここにはほぼ地元の方々、今主体で入ることは多分ないかと思いますが、設備については、先ほど説明したとおり、自治会から、いろいろなご意見とか、アイデアを出していただいております。

それと、学校の名前は、校名等検討部会とありますが、ここには校名を初めとして校歌だとか、校章、学校の紋章をどうしようとか、先ほどちょっと言ったのですが、いわゆる小学生の年齢段階から制服を導入することもありますし、ある年齢で区切って、中学生の年齢から学生服だというように今はやっておりますが、このあたりにつきましても新しい学校ですので、何かの決め事をして導入する、しないというのも含めてやっていかなければならないと思っております。

それと、何よりもご心配なのは、跡地の利用かと思いますが、この校名等、それから跡地の利用につきましては、これは役所、あるいは学校関係者だけではなくて、自治会を初め地元の方々のご意見を入れて、皆様のご意見で決めていきたいと考えております。ただ、今すぐ開催するという事ではなくて、それぞれ担当課の、あるいは教育委員会としての判断になりますが、それぞれの開催の日程等が決まりましたときには、なるべく早目に関係の方々にご連絡を差し上げたいというふうに考えております。

◇懇談質問6（茨城国体について）

2019に茨城国体があるが、ひたちなか市は陸上、バレー、水泳、サッカー、をやることになっているが、まだ周知されていないので、垂れ幕をつくって、啓蒙活動してはどうか。

■市民生活部長

国体まであと2年ということでのご提案は、垂れ幕等も一つの大きなPRの要素になります。また、今回からお願いしております、草花の花いっぱい運動活動も間もなくプランターが配置されて、やっていただくということでのお願いをしているところですが、非常に参考になるお話なので、これは持ち帰り、どの程度までできるかを検討させていただきたいと思います。

◇懇談質問7（小中一貫校と駅の場所について）

小中一貫校が、何年後になるか知らないし、学校や駅がどこにできるのかわからない。中学校のあたりは、雨風になると傘がもたない。壊れた傘があちこちに倒れているので、無人でいいので駅を作って欲しい。

■教育次長

まず、一貫校のできる場所でございますが、お手元に地図を配付させていただいていると思います。それを開いていただきますと、番号が振ってあります。それに10という数字が打ってございます。そこに赤く線を引いて示しております。ここが一貫校を建設する予定の場所であります。

それで、地図上ですので、北側の線を湊線まで延ばしていったところ、湊線にぶつかる場所なのですが、そこに新しい駅をつくらうという計画をしております。そして、この駅から今申し上げました一貫校の建設予定地までは、ここは120メートルから150メートルぐらいの範囲なのですが、ここは徒歩ということになります。

そして、この一貫校ができる、建設して学校が始まる時期でございますが、平成33年4月から開校を目指して、今から準備を進めているところであります。

それと、お申し出の新駅、また新しい駅をとというお話でしたが、今私が申し上げた場所とは、また違う場所をお考えで申されたのでしょうか。

◇懇談質問7（小中一貫校と駅の場所について）

平磯中学校から上がってきたところに無人駅ができれば、雨風を避けるにもいいと思う。

■教育長

次長から申し上げましたように平成33年4月に開校予定でございます。現在私が一番心配しておりますのは、やはり登下校の安全でございます。それをどのように確保していくかということが一番大切なことであると思いますので、教育委員会の中でも連続して会議を開いて、検討させていただいております。

その中で、ひたちなか海浜鉄道がありますので、それを利用していただくのが、この地域では一番いいのではないかとということで、平磯地区については平磯駅、それから阿字ヶ浦地区については阿字ヶ浦駅、ここに子供たちに歩いてきてもらって、そして学校駅で下車していただいて、そして安全を確保するというのが最もベストではないかと今のところ考えております。

それから、中学生につきましても、自転車の通学ということも考えられますが、やはり現在一番私が懸念しますのは、交通事故ももちろんですが、最近誘拐事件が多いのです。ですから、このことへの対応も考えたときに、やはり目が届かない、または一人きりになってしまう、そういった子供たちをどのようにして守るかといったことを考えたときも、やはり海浜鉄道を使うということがよろしいのではないかとということで、教育委員会としては、現在のところ、その方向でさまざまな計画をしております。まだ現在いる子供たちが入れかわって行くわけですが、その辺のシミュレーションをこれからもずっと続けて、安全な登下校ができるようにしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

■市長の講評

事前のご質問も含めて、具体的なご提案やご要望、ご意見いただいたことを感謝申し上げたいと思います。

今回統合校をつくるという、ある意味では非常に節目といいますか、歴史的な状況になっているのではないかなと正直思います。今、磯崎小学校にしても、平磯小学校にしても、平磯中にしても、つくるときには地元でいろいろご意見や議論があったのではないかなと私は推測しているのです。いろいろないわれやいきさつがあって、この場所になったという経緯があると思いますが、改めて今回この場所につくろうという、そういうお話をさせていただき、ある意味では集約をさせていただく中で、せっかくのいろいろな機会でありますから、皆さま方がお感じになったこととか、こういうことを盛り込んだらいいのではないとか、そういう絶好の機会と思って我々は受けとめさせていただきながらやりたいと思います。

学校をつくる側、学校の経営や教育側のいろいろな感覚や考え方もありますし、また地域とのかかわり方という問題も当然あります。そして、特に子供たちの通学の安全をどうやって図るかということであります。私も通学路等についての、いろいろ検討案、途中経過も見せていただいて、私なりに意見を申し上げさせていただきましたが、極力湊線を使ってもらおうということで、湊線の駅よりも、この統合校が近いところの子供たちに対する安全は当然道路の中で配慮するというので、そして駅までの安全や駅に至るまでのアクセスの利便性について確認をし、改善すべきことはしてはどうかと思います。

湊線は、ちゃんと本数は走るのかというご質問がありましたが、これは三セクですから、車両に限りがありますので、そんなに自由に走れるかと言われると限界はあると思いますが、ただ人ごとのように走るわけではありませんので、ご要望に沿った走り方が恐らくできるのだらうと思います。そこが湊線の非常にいいところではないかと思えます。

これはちょっと先走った話になりますが、通学定期をご購入いただくかどうか、いろいろ考えている、市全体の課題でもあるのですが、1年間に二百何十日間乗ってくれる子供たちが何百人来るわけですから、恐らく湊線の利用客は年間20万人ぐらい増えるのではないかと、そういう計算もあるのです。それは一つの象徴的な話であります、こういう機会でもありますので、皆さま方のご意見を十分反映させていただければと思えます。

それと、裏腹の話で、では今ある学校をどうするだということになるわけですが、この利活用も皆さま方からご提案をいただきたいと基本的には思っておりますが、それだけの面積と建物を使いこなせるかということ、正直言いまして、なかなか難しい部分もあると思うのです。維持費もかかったりしますから、どの辺まで利用するかというのを具体的にすり合わせていきたいと思えます。

コミセンのご提案もあるわけでありまして、この統合校の脇につくるのがいいのではないかという非常ごく自然なご提案だと思えますが、では跡地はどうするかということの兼ね合いの中で十分検討させていただきたいと思えます。なぜ平磯の今の学習センターがあそこにあるのかと、私自身もちょっと疑問なのですが、これもいろいろいきさつがあったのだと思えます。あの場所にしても駐車場がないのはおわかりの中で進められたということもありますから。でも、今となってみれば、どうなのかなという問題意識が出てくるのも当然だと思えます。

阿字ヶ浦との関係もどうするかは、これもまたこれからの話であります、私は学校を統合する際にいろいろ懸念されている、今までの地域のつながりが、これで何かなくなってしまうのではないかと、人と人とのつながりがちょっと心配だというご意見が必ずありますので、やはり今までの平中学区なら平中学区、阿中学区なら阿中学区の自治会やコミュニティの活動は、基本的にはやはり尊重させていただくのがいいのではないかと思えますが、長い目で見たときに、どのような活動をしたらいいか、それは施設をつくる際の問題として、また新たなポイントが加わるということも十分考えられますが、これはいい機会でもありますので、ご理解をいただきながら、ぜひ進めていきたいと思えます。

また、幼稚園のご提案もあります。これも市全体で考えると、いろいろな面がありまして、平磯幼稚園が一人も子供がいまま何年も経過しているということなのです。その子供はどこへ行っているのだとか、あの地域のですね。そ

ういう調査も、もちろん情報も把握させていただいておりますが、この地域に必要な幼児教育、保育をどんなふうにするかというのは、今民間の力もおかりしようという考え方もあわせてやっていますので、公立保育所、それから公立の幼稚園の再編統合も民間にお願いできるところはお願いしようということで、どうしても市でやらなければいけない分野や仕事、例えば障害を持っている子供たちに対してしっかり向き合うとか、そういう役割分担もさせていただきたいと思っております。決してこの地域を幼稚園、保育所の空白地帯にするつもりはありませんので、その辺はよくご理解もいただきながら進めさせていただきたいと思っております。

それと、道路のご提案があります。これは地域の大きな発展のためにというご提案だと思っておりますので、具体的にこれは学校の統合整備との兼ね合いの中でもどういう線形がいいかという、役所風の答弁も今ありましたが、もともと必要な道路としてお考えになっている、この地域にとって必要なルートと捉えられていると思っておりますので、実現に向けてどうしたらいいのか、またどのぐらいの利用があるかとか、そういうことについてももしっかり検討させていただきながら進めてまいりたいと思っております。

余談になりますが、ここを延ばすと何キロぐらいになるかということですが、湊線の延伸も3キロちょっとなのです。道路をつくるのと湊線、鉄道を延ばすのと、用地からいうと余り変わらないのではないかと。もしかしたら鉄道のほうが少ないかもしれないということですよ。ですから、そういう意味では、いろいろな可能性や、鉄道にしても道路にしても、本当に横並びでいろいろ物考えられる時代、状況に、この地域はなっているのではないかなと思っております。

自治会長が、変わっていく予感がするというふうにおっしゃっていただきましたが、今まで確かにそういう話は余りなかったと思うのです。そういう意味では、今大きく変わり得る可能性があると思っておりますし、お隣の阿字ヶ浦は区画整理をやっています。あの中で湊線のルートも生み出しながら、あそこを住まいにされる方もかなり想定できるのではないかと。磯崎地区にもどのような住宅を誘導するかという課題はもちろんあるわけですが、そういう可能性として十分我々は考える余地はあるのではないかとと思っております。

今、常陸那珂港という港も、物流として非常に活用されておりまして、この4月からナムスンという韓国の船会社のコンテナ船ですが、実は2航路増えまして、週3便、コンテナ船が入っていますし、前から北海道との航路、ROR O船航路は1日2便ですし、コマツや日立建機が今再度忙しくなったようでありまして、船待ちの製品を並べている状況も皆さんご覧になられるかもしれませんし、車の積み出しという意味でも、スバルの輸出もここから最大月間2万台を中央ふ頭から出そうとすると、今、ふ頭が足りないのもう1バースつくるという、そういう予算がついて工事も始まろうとしています。

そういうことで、非常に動きのあるところでもありますし、お客さんが連休中に58万人も海浜公園に来たわけですから、この辺も交通渋滞、いろいろご迷惑も本当にあったと思うのです。ですから、最初の高齢者のテーマの中でもあるわけですが、公共交通の役割というのは非常に大切ではないかと思っております。

そういう意味で、ここは結構交通便利の地域ではないかと回答したようなことがあります。確かに本数だけ見ると、こんな走っているところはないというぐらい結構走っておりますが、使い勝手がいいかどうか、そして本当に必要とされている方に合っているかどうかという検証は、これはまた別の問題でありますから、その点については、心して進めさせていただきたいと思っております。

あと、先ほど子供たちの通学の際の雨風が強くてかわいそうだから、とりあえずでもいいから、駅を近くにつくったらどうかというご意見だと思うのですが、それはつくるのです。無人駅といっても、やはりお金は相当かかるので、それはそれでなるべくこの統合校の対応を急がせていただきたいと思っております。

それから、国体に向けて啓発活動をやれというご意見が出たのは本当に非常に頼もしく、うれしく感じております。そういうご意見は初めていただきましたので、花いっぱいも進めるということでもありますし、実は笠松運動公園の事務所の所在地はひたちなか市になっておりまして、開会式も閉会式もひたちなか市でやります。陸上競技場の所在地は、実際は那珂市なのですが、ひたちなか市で陸上競技、水泳、サッカーとバレーボールをやります。いろいろ遠くからのお客さんも来られますので、おもてなしの気持ちで進めたいと思っておりますので、できる限りのまたご協力を賜ればありがたいと思っております。

かなり宿題も、これから検討しなくてはいけないことも残しながらの市政懇談会になったと私自身思っております。市民会議の中で電波研究所の跡地の活用についてもご検討されているということでもあります。私もあの建物、施設は見させていただきましたが、なかなか大変なものです。複雑かつ強固というか、何とも言えない建物群でありますので、これは市もなかなか手に負えない部分、手を焼く部分も正直言っているのではないかと思います。何か部分的でもいい、国にもそれなりにちゃんと負担してもらって壊す部分は壊してもらおうとか、そういうことをやりながら、活用できる方策があればいいのではないかと思います。ぜひ引き続きご議論、ご検討をいただきたいと思っております。

こういう形で締めさせていただくのは少し心苦しい感じもしますが、今日いただいたご意見やご提案を本当に真剣に受けとめさせていただいて、皆さま方に、こういう形でできるのではないかと逆に提案をさせていただくという、そういう形で今後とも仕事を進めさせていただきたいと思っておりますので、ひとつどうぞよろしく願いいたします。貴重な2時間をいただいたことに改めて感

謝を申し上げさせていただいて、締めとさせていただきます。ありがとうございました。